

# Takaoka Craft Ichiba-machi

## —魅力アップの切り口—

いちばまち  
「高岡クラフト市場街 2013」が担う課題

富山大学 客員教授 松原 博



「高岡クラフト市場街」は、2012年に25年の歴史を持つ「工芸都市高岡クラフトコンペティション」（以下、高岡クラフトコンペ）の活性化に端を発し、その前後にバラバラに行われていたいくつかの事業を結びつけると同時に新たなイベントも加え、それらのシナジー効果を上げるべく「高岡クラフト市場街」という冠のもとにまとめた事業である。2012年の初年度は従来個々のイベントに比較し全体での来場者数やクラフト商品の売上増といった成果を上げることができた。2013年10月には高岡クラフトコンペや中心市街地のさらなる活性を目指して、その第2回を開催した。

### ■2013年新たな魅力の追加

クラフトを中心とした2012年に対し、2013年の市場街の特徴を、「ものづくりと古いまちなみ」という高岡の固有資源の中で、「食」を大きな柱としたことにある。「食」は生活の中心であり、誰もが親しみやすい。「クラフト」と日常の生活をより近くするというのが、市場街の目指すことの一つである。

「クラフト、ものづくり」の事業は2012年に引き続いて、「高岡クラフトコンペ」の入賞/入選作品展「工芸都市高岡2013クラフト展」、コンペ入賞作家の他の作品を展示する「作家の引き出し展」、県内のクラフト作家を紹介する「クラフトマンズギャザリング」、芸文学生と高岡の職人のコラボによる「クリエイティブ」展などに加

えて、新たに富山ガラス工場の作家13名の「富山ガラスのうつわ展」、芸文ギャラリーでは創業240年の歴史を誇る地元、山元醸造の醤油と県内外の工芸作家たちの手になる醤油差しを合わせた、「木樽と土釜の仕事」など新たなクラフトにかかわるものを加えて展開した。

また、「販売」の新しい機軸として高岡の伝統産業メーカーが近年生み出しているデザイン性と質の高い商品を販売する場「高岡ファクトリークラフトショップ」を企画した。全国的に有名になっている商品も多い中、地元でなかなか買える場がないという声に応えた企画である。

そして、普段見る機会のないものづくりの現場を巡り、職人たちから直接説明を聞く、伝統産業青年会主催の、「高岡クラフトツーリズム」は、デザイナーやバイヤー向けの一般コースと全国の学生向けの2タイプを設定し、それぞれがものづくりの異なる切り口を体験できたと好評を博した。

さらに、ゲスト、照明デザイナーの面出薫氏と、映像作家の菱川勢一氏による、高岡の街の魅力や課題を発見する「まち歩きワークショップ」を2回実施。面出氏のワークショップは、照明探偵団と称し、30人ほどの参加者が実際にLEDの懐中電灯と色温度を変えるカラーフィルターを持って金屋町の古い町屋を照らす実験を行い、光の種類による見え方の違いや、対象物によってふさわしい色温度があることなどを体感し、景観における夜間照明の大切さを学ぶツアーを実施した。





一方の菱川氏とは、市場街の会場を巡りながら、金屋町、旧魚市場通、山町筋から本町にかけてのまちなみを一緒に歩き、ものづくりの街「高岡」らしく、空き家を活用して、世界中からクリエイターが集える工房やレジデンスができないかといったいずれもこれからの「まちづくり」をテーマとした切り口で、ツアー後にそれぞれがディスカッションを行った。

そして2013年の柱である「食」、全国のクラフト作家の作品や高岡の商品を中心市街地の飲食店の器として使う「クラフトの台所」を、前年度の2店舗から一挙に10店舗に増やして実施。クラフトに親しむきっかけを作り、生活の中にクラフトを取り入れることで「豊かな暮らし」という生活の質の提案を行った。

さらに「食」のもう一つの新たな試みは地場の食材を使った料理を高岡で作られた食器で楽しんでもらう期間限定のレストランを、高岡で有機農園とレストランを営む「Jun Blend Kitchen」が料理を提供、器は「高岡漆器青年会」が新たに開発した食器や市内の作家が制作した作品を使用した「たかおかローカルキッチン」を開催した。会場は、高岡の鋳物発祥の地・金屋町にある築133年の古い町家を借用、空間、器、料理と三拍子そろった「高岡づくし」を楽しみ、会期中は道路に面した座敷を利用して若手農家・酪農家が新鮮な農産物や加工品を販売する「高岡マルシェ」も併催し、消費者に直接彼らの取り組みを紹介する機会ともなった。

食の事業はいずれも人気が高く、ローカルキッチンはランチタイムは30分～1時間待ちの盛況ぶりで、待ち時間を使って金屋町一带の展示会場を回遊するという相乗効果も生み出した。

同時期開催イベントでは、「第33回高岡万葉まつり」などに加えて富山と高岡で隔年開催される「富山デザインウェーブ」「富山県デザイン展」が高岡で開催され相互に事業の告知によって、中心市街地への一層の誘客を図ることができた。

#### ■成果とともに見えてきた課題

数字の上では、総来場者数は23,826人（前年、14,141人）、クラフト作品の総売上は391万円、（前年358万円）とどちらも伸ばすことができた。スタンプラリーの参加者も377人（前年188人）と倍増、スタンプラリーは10地点を回ることを応募条件としたため、多くの人が熱心に各会場を回ったことを物語っており、この期間、中心市街地に賑わいを創りだしたことが数字上からもうかがえる。

数字から離れるといくつかの課題も顕在化した。運営の内部課題としては、企画の多くがそれぞれに運営基盤、予算を持ち、市場街全体として多くの団体機能がかかわることによる事前調整の多さ複雑さがあげられる。また運営の外部課題として、伝統産業青年会などの連携は達成できたが、商店街や自治会、地場の巻き込みが十分





とは言えない。企画、準備段階からの巻き込みや説明が不足しており、さらに早い段階から協働に取り組みないと、地元が「お客様」となってしまう懸念が見え隠れした。

事業実行の実務体制はその大半がイベントの直接関係者や学生を中心としたボランティアであり、運営スタッフの不足や関係組織間の連携も不十分であった。学生も自ら自主的に企画ができる場を作ったりということろまで至らなかったという運営上、体制上の課題が生じた。

来街者の受け入れ態勢では、「駐車場」不足が指摘され、駐車場の確保とともに、「徒歩、レンタサイクル、路面電車、バス」といった他の交通手段との組み合わせによる面的移動手段の確保が必要である。

また、特にJR利用者からは、高岡駅から、御旅屋通り、山町筋、金屋町への案内が不足していたとの指摘もあった。イベントの多さは楽しみも増加するが、宿泊してゆっくり回りたいという希望者からは、他イベントの重なりもあり、宿泊ベッド数が全く足りず、宿泊施設対応やその情報提供が大きな課題として顕在化した。今後は空き家のゲストハウス化に取り組んでいる「高岡まちっこプロジェクト」などとも連携し、旅館やゲストハウスといった高岡らしい宿の紹介と、宿泊を含めた「着地型観光ツアー」の企画も望まれる。

広報については、前年度に比べ一般メディアでの紹介の機会大幅増に対し、地域広報がまだ不十分であり、より実質的な集客が見込まれる地元地域からの参加者掘り起しに今後検討の余地が残る。

「高岡クラフト市場街」は、民間主導で始まったこともあって、最大の課題は資金確保にある。日本各地が「地域活性」に取り組む中、成功事例には共通点がある。その地域の特性を認識した、行政/民間/教育機関/産業界などが連携する新しい仕組みをつくりだしている。

「高岡」でもそうしたポテンシャルを持つ事業を「高岡クラフト市場街」とするならば、その運営主体と仕組みづくりは持続的な活動への大きな試金石といえる。

#### ■「高岡クラフト<sup>いちばまち</sup>市場街」がめざすべきものは何か

高岡市は平成の市町村合併で福岡町など周辺地域を加えて人口17万人の地方中核都市となった。一方で地方都市に共通する若年労働力の流出に伴う人口構成の高齢化と中心市街地の活力喪失も顕著である。

しかし街の状況を細かく見ると、駅南地区では大型ショッピングモールや新幹線「新高岡駅」開業を控え、新しい住宅建設が進むなど、駅北比較で地域全体の活況度に差が大きく出始めているのは地方都市に共通する新





旧市街地の課題である。

そんな中、特に高齢化人口の集中するいわゆる駅北地域の中心市街地活性化は、より具体的な切り口を見出す必要に迫られている。

駅南を、生活の「量」の街とするならば、駅北を生活の「質」そして長い歴史を引き継いできた「文化」を謳う街とするべきだろう。

NPO、特定法人などの活動もあり、地方、地域単位の住民参加型いわゆるコミュニティ型のイベントが全国いたるところで花盛りであり、その状況はマスコミ報道だけにとどまらず、フェイスブックなどSNSを通しての発信からも明確である。

いわゆる「まちづくり」、種々の課題を重ね合わせたとき、二つのことを考える必要がある。一つは、イベントや助成金に頼った形での「まちづくり」は長続きしないと思われること。自己資金やイベント収益から相当の部分をまかなえる企画と体力が必要だろう。それにはイベントを街の恒常的な活性化につなげ、イベントとして終わらせない仕組みづくりが必要である。

今一つは日本経済が、70-90年代の世界をリードする時代から、2000年以降、先端技術、特定産業を除き一般的には、日本国内や地域での循環型経済を志向する時代であり、地方都市が元気になる産・官・学の在り方である。

これらのことからイベントを助成金活用でスタートしたとしても、最終的にはその特定地域全体の自立した恒常的な活性化の源泉となる仕組みと体制を作らなければいけない。

過去2回の実績から「高岡クラフト市場街」は資金、運営手法など顕在化する直接的な課題を踏まえ、単なるイベントからこれからのまちづくりの在り方という大きな課題解決を目指して、2014年10月に第3回を迎える準備を進めており、広く産・官・学の理解を求めなければいけない。(本原稿執筆時点、2014年11月では、「高岡クラフト市場街2014」は終了している。)

#### 高岡クラフト市場街2013実施事業

【 】は予算処置を持つ個別主催団体を示す

1. 工芸都市高岡クラフト展・ダイワ高岡店4階催事場【工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会】
2. クラフトマンズギャザリング・ダイワ高岡店1階アトリウム【高岡市デザイン・工芸センター】
3. 作家のひきだし展・土蔵造りのまち資料館／金屋町金属工房かんか／Babooshka／FISHERman【作家の引き出し展実行委員会】
4. 富山ガラスのうつわ展・蔵造りのまち資料館
5. 菱川勢一写真展・小泉家/金屋町、本町の家
6. クラフトの台所・オステリアタイキ／nousaku／SEIGETSUDOU CAFÉ、フロレゾン、盛盛、鮭金、わろんが、和風カフェ次元、食堂ラクウ、メリースマイルカフェ
7. 高岡ファクトリークラフトショップ・漆器くにもと、大寺幸八郎商店、D.front、はんぶんこ
8. 木樽と土窯の仕事・芸文ギャラリー【芸文ギャラリー】
9. 高岡クラフツーリズム・市内銅器、漆器製造工場、工房【高岡伝統産業青年会】
10. クリエイ党展・山町筋 弥栄【富山大学芸術文化学部クリエイ党】
11. たかおかローカルキッチン
12. まち歩きワークショップ
13. スタンプラリー